



和田 岳さんの

# 身近な鳥から鳥類学

第23回 ヤマガラが下りてくる年



2年前の秋を覚えていますか？ 日本各地の平地にヤマガラの姿が多く話題になりました。昨年はどうでもなかったけど、今年はどうでしょう？ そこで、今回はヤマガラに注目してみます。テーマはどんな年にヤマガラが平野に下りてくるのかです。

## ●長居公園では冬鳥

長居公園（大阪市東住吉区）で鳥を見ていると、大阪府全体では留鳥とされるのに、長居公園では冬だけにやってくる鳥がいます。例えば、ヤマガラ、ヒガラ、エナガなどです。こうした鳥は、繁殖期には主に山地の林に生息しています（近頃は一部平地の都市公園でも繁殖）。長居公園にどこからやってくるのかは分かりませんが、なんとなく山から下りてくるイメージです。山では留鳥なのに、平地の緑地では冬鳥という例は、他でも知られています（例えば鳥取大学：村田ほか2011）。

冬鳥の面白いところの一つは、年によって渡来数が変動する点です。長居公園にやってくるエナガやヒガラ、ヤマガラの個体数も年によって変わります。変わるというより、やってくる年とやってこない年があると言った方がいいかもしれません。

## ●ヤマガラは隔年で越冬する！？

表1に1994年4月以降にヤマガラを確認した月を示しました。真面目に調査をしてる月もあるし、さぼっていてあまり調査していない月も混じっています。つまり調査努力量は全然違います。ひと月の間毎日確認していても、一度しか確認していないても、同じく「●」で示しています。このように大変大雑把なデータなのですが、とてもはっきりした傾向が読み取れます。

ヤマガラの越冬期を10月から3月と勝手に決めつけると、過去20年の間、一度の例外もなく偶数年度にヤマガラは長居公園で越冬しています（表1）。奇数年度にも、越冬したと言っていいほど冬中出現していたこともあります。

表1：長居公園でヤマガラを記録した月（1994年4月～2014年10月）。

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1994年度	●	●					●	●	●	●	●	●
1995年度	●						●	●	●	●	●	
1996年度			●	●	●		●	●	●	●	●	
1997年度							●	●	●	●	●	
1998年度				●			●	●	●	●	●	
1999年度	●		●	●	●		●	●	●	●	●	
2000年度	●				●		●	●	●	●	●	
2001年度	●						●	●	●	●	●	
2002年度		●				●	●	●	●	●	●	
2003年度	●	●				●	●	●	●	●	●	
2004年度					●		●	●	●	●	●	
2005年度	●						●	●	●	●	●	
2006年度						●	●	●	●	●	●	
2007年度	●						●	●	●	●	●	
2008年度	●	●	●				●	●	●	●	●	
2009年度	●						●	●	●	●	●	
2010年度						●	●	●	●	●	●	
2011年度	●						●	●	●	●	●	
2012年度							●	●	●	●	●	
2013年度	●						●	●	●	●	●	
2014年度							●	●	●	●	●	

※●：それぞれの月に1度でもヤマガラを記録した場合

ますが（1999年度と2011年度）、まったくと言っていいほど姿を見せない年の方が多くなっています。

面白いことに、ヤマガラと同じく冬に来たり来なかったりするエナガやヒガラで同じような表を作つてみても、はっきりした傾向は見いだせません。どうしてヤマガラだけ隔年でやってくるのでしょうか？

## ●なぜヤマガラは隔年でやってくるのか？

安定同位体比の分析から、ヤマガラの食性は、シジュウカラやハシブトガラに比べ、植物食に偏っていることが示されています（Kawamori & Matsushima 2012）。樋口（1975）は、伊豆でヤマガラの食性の季節変化を調べた結果、4～9月には昆虫が約90%を占めているのに対し、それ以降は植物質が占める割合が30～40%に増加する事を報告しています。ヤマガラがよく食べる植物質としては、スダジイ・エゴノキ・ツバキの堅果、マツの種子、クスノキやミズキ・クサギなどの液果、オオバヤシャブシ雄花などが挙っています（樋口1975）。

堅果や液果の豊凶は、地域・樹種によって違い一概には言えません。しかし、大雑把に言えば、過去20年の大阪府周辺の果実



図1：木の洞に実を貯えるヤマガラ  
大阪城公園2010年12月（納家 仁）

は、偶数年に不作な傾向があり、奇数年度に豊作な傾向があります。冬に木の実をよく食べるヤマガラが、不作の年度に山から下りてくる傾向があるのは、なにか関係があると思えてなりません。

## ●野外で実際に観察してみよう

ヤマガラが、平地に多く出現したり、しなかったりする原因是、他にも考えられます。たとえば繁殖がうまくいって、幼鳥が多い年には平地まで下りてくるのかもしれません。ともかく、まずは、どんな年にどの程度ヤマガラが平地で見られるかを記録していくことです。偶数年度の今年、家の近所にヤマガラの姿はありますか？

## ●引用文献

- 樋口広芳（1975）伊豆半島南部のヤマガラと伊豆諸島三宅島のヤマガラの採食習性に関する比較研究。鳥, 24: 15-28.  
Kawamori, A. & T. Matsushima (2012) Sympatric divergence of risk sensitivity and diet menus in three species of tit. Animal Behaviour, 84 (4): 1001-1012.  
村田麻理恵・中森純也・永松 大（2011）鳥取大学鳥取キャンパスの鳥類相と季節変動。山陰自然史研究, (6): 25-36.

和田 岳（わだ たけし）：本会幹事、大阪市立自然史博物館学芸員。H P 「和田の鳥小屋」  
<http://www.mus-nh.city.osaka.jp/wada/wada-index.html>